

終助詞「よ」を文末に持つ文のモダリティー - 国会会議録と衆議院インターネット審議中継の動画を資料として -

著者	小矢野 哲夫
雑誌名	神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会 紀要
巻	2
ページ	1-16
発行年	2017-03-31
URL	http://doi.org/10.32129/00000048

終助詞「よ」を文末に持つ文のモダリティー
－国会会議録と衆議院インターネット審議中継の動画を資料として－

小矢野哲夫

キーワード：終助詞「よ」、モダリティー、イントネーション、口調、表情

1. はじめに

本稿は言語資料としての文字資料と非言語情報を含む視聴覚資料とを利用した言語分析の試みである。文字資料として国会会議録を使用する。視聴覚資料として衆議院インターネット審議中継の動画を使用する。文字資料だけでは観察・分析しきれない非言語的な事柄について、視聴覚資料から得られる情報を参照して分析を補完しようとするものである。

観察・分析の対象とするのは終助詞「よ」を文末に持つ文である。特に発話・伝達に関わるモダリティーについて資料に基づいて分析する。

2. 観察・分析のきっかけと観点

このような観察・分析を行うきっかけとなったのは、「逆質問・上から目線・いらだち…安倍流答弁を解剖／語尾や「句読点」にも特徴」という記事（注1）である。

記事は、安倍晋三首相の答弁について、東照二・立命館大学教授のコメントを次のように紹介している。

東教授は語尾に「よ」を付ける話し方に着目する。4日、民主党の大串博志氏とのやり取りの際には「(民主党から改憲草案は)何も出てないんですよ。出してみてくださいよ」と重ねて迫った。東教授によると語尾に「よ」を付けるのは「力関係で相手に勝っているとの心理の表れ」で、今国会は昨年に比べて「非常によく使っている」という。

このやりとりとして引用されているのは、具体的には以下の答弁の下線部分（引用者が付した。以下同じ。）である。国会会議録から引用する。

○安倍内閣総理大臣 まさに、皆さんのように、指一本触れてはならない、考えてはならないという思考停止に陥ってはならない。なぜか。(発言する者あり)そうではないと言うんだったら、民主党が立党されて随分たつんですから、何か議論して、何か成果が出ましたか。何にも出てないんですよ。(以下 233 文字省略)

(大串委員の質疑 441 文字省略)

○安倍内閣総理大臣 先ほど申し上げたのは、皆さんが具体的な憲法改正草案を、私たちのようなものを出してはいないのは事実であります。ですから、それを出していないのであれば、大串さんののは弱々しい言いわけにしかすぎないんですよ。弱々しい言いわけにしかすぎない。それは、指一本触れていないのと全く同じだということだと思えますよ。政治家だったら、私にそういうことを言うんだったら、出してみてくださいよ、御党がまとまるのであればね。(以下 578 文字省略) (190-衆-予算委員会-7号 平成 28 年 02 月 04 日 088 番目、090 番目の発言 下線はいずれも引用者が付した) (注 2)

引用部分から分かるように、記事で「重ねて迫った。」と言っているのは事実と異なっている。また、「語尾に『よ』を付けるのは『力関係で相手に勝っているとの心理の表れ』で」というコメントは、「よ」全般の特徴とはいえない。このことから、はしょった事例を元に行っているのではないかと誤解されかねないコメントは妥当ではないことを学ぶことになる。したがって、国会会議録を直接参照し、かつ、衆議院インターネット審議中継の動画を視聴したうえで「よ」の機能を検証する必要があると考える。

もう一つ、この記事には、参考になる指摘がある。次の佐藤綾子・日本大学教授のコメントである。

佐藤綾子・日本大学教授は語尾を下げる話し方に注目する。「フォーリング・イントネーション」と呼ばれ、「自分の主張に自信がある証し」とみる。答弁中のアイコンタクトや腕の振りも十分で、この問題に関する「首相の強い自信を国民に示している」。

「フォーリング・イントネーション」すなわち下降調イントネーションの機能を指摘しているのである。言語表現の音声上の要素が発話を分析する際に有効であることを示している。

この指摘はもっともなことである。遅ればせながら、筆者もかつてイントネーションが文の意味に影響することを指摘している。(注 3)

「よ」を文末に持つ文のイントネーションにはおおむね上昇調と下降調の 2 種類がある。「自分の主張に自信がある証し」は本当に下降調イントネーションの場合であって、上昇調イントネーションの場合にはそれが見られないのか、検証する必要がある。さらにまた、「答弁中のアイコンタクトや腕の振り」といった、発話に伴う特徴を参照することが大切であることを学ぶことになる。

以上のことから、本稿では、国会会議録の質疑応答を、その元になっていると考えられる衆議院インターネット審議中継の動画を視聴することによって、終助詞「よ」を文末に持つ文の特徴を精緻に観察し分析することを目指す。具体的には、発話のイントネーション、口調、表情、身振り・手振り、視線といった観点から観察し分析しようとするものである。

このような観察と分析は、公開されているデータを研究者と共有することで追試・検証することが可能となり、その妥当性が保証される。

さきほど引用した安倍首相の答弁を、動画で確かめてみる。088 番目の答弁。

「そうではないと言うんだったら、民主党が立党されて随分たつんですから、何か議論して、何か成果が出ましたか。何にも出ていないんですよ。」

発話内容は、次のように理解できる。憲法改正問題に関して民主党に対して、立党以後随分時間が経っているのだから、議論して何か成果が出ているのは当然だと考えられるが、「何か成果が出」たのかと問いかけ、答えを待たず「何も出ていない」と断言し、「んですよ」の形式で強調して相手に突きつける勢いを帯びている。イントネーションは下降調である。

「何か議論して、何か成果が出ましたか。」と、大串委員を見ながら、左手をテーブルに置き、胸を張って問いかけ、ポーズを置いている。ついで「何も出ていない」の部分は、いわば相手の弱点を指摘するものであり、全否定を強調するように「なーんにも」と発音している。そして、大串委員を含めた他の委員のいる席を見回している。この発話の後、安倍首相は両手でズボンを上げる動作をし、スーツのボタンを整えるしぐさをして後続の発話を行っている。佐藤氏が「アイコンタクトや腕の振りも十分」だとする評価に該当する。それが「自分の主張に自信がある証し」と評価される発言だと考えられる。

「何にも出ていないんですよ。」は下降調イントネーションで発話され、相手の弱点を指摘し、自分の主張に自信を込めて強調し、突き放すような態度を読み取ることができる。

次に 090 番目の答弁。

「それは、指一本触れていないのと全く同じだということだと思いますよ。政治家だったら、私にそういうことを言うんだったら、出してみてくださいよ、御党がまとまるのであればね。」

発話内容は、大串委員の質疑を「弱々しい言いわけにしかすぎない」と二度繰り返すことによって否定的な評価を示した上で、憲法改正案を「出してみてくださいよ」と声を大きくして下降調イントネーションで発話し挑発している。「出してみてくださいよ」は、形式的には丁寧な依頼表現であるが、実質的には「出せないだろう」という反語的な内容を持っている。「全く同じだ」の部分では「まーったく」と聞こえる発音で強調している。「出してみてくださいよ」の部分で、左手をすくい上げるように動かしている。「御党がまとまるのであればね。」の部分は上昇調で、両手を広げる動作をしている。まとまらないだろうとでも言うかのごとく挑発的な態度である。この後、苦笑のような笑いを伴っての答弁が続く。野

次がひどくなったために、「そこですね、そこで、えー、そこですよ、そこで、えー、申し上げますとですね、申し上げますと、えー」と、同じ語句を繰り返しながら答弁している。

「出してみてくださいよ」からは、相手が草案を出せないだろうと見越して高圧的に迫る勢いを見て取ることができる。

本稿はこうにして分析を行おうとするものである。

3. 分析の対象と基礎的なデータ

分析のデータは、2016年1月13日に行われた衆議院予算委員会の記録、第190回国会衆議院予算委員会議録第4号画像(pdf形式) pp.9-12(国会会議録検索システムによる本文表示では発言番号[043][065])である。

民主・維新・無所属クラブの山尾志桜里委員(以下、山尾委員と称する)と安倍晋三内閣総理大臣(以下、安倍首相と称する)との間で行われた質疑応答で、衆議院インターネット審議中継では36分のものである。

文字テキストは国会会議録検索システムの本文表示による表記に従った。審議中継での音声がすべて文字化されているわけではない。本文表示において句点で区切られたものを1文と数えた。その結果、この質疑応答は合計238文(11937文字)からなる。これに001から238までの通し番号を付け、エクセルでデータ化した。

山尾委員の質疑と安倍首相の答弁は以下のようにになっている。丸括弧内に示した角括弧付きの数字、例えば次の1行目の[043]は国会会議録検索システムの本文表示における発言番号を表し、その後に、発言の文字数を表す。丸括弧外の数字、例えば2行目、3行目の016、029は、終助詞「よ」を文末に持つ文の番号を表す。

山尾委員 001 から 015 ([043]、925 文字)

安倍首相 016 から 024 ([044]、773 文字) 016

山尾委員 025 から 040 ([045]、610 文字) 029

安倍首相 041 から 054 ([046]、657 文字) 041、045、047、048、050、051、052

山尾委員 055 から 089 ([047]、1399 文字)

安倍首相 090 から 108 ([048]、943 文字) 090、091、093、094、095、096、108

山尾委員 109 から 131 ([049]、1011 文字) 111、118、119

安倍首相 132 から 139 ([050]、576 文字) 136

山尾委員 140 から 143 ([051]、111 文字)

安倍首相 144 ([052]、105 文字)

山尾委員 145 から 151 ([053]、208 文字)

安倍首相 152 ([054]、43 文字)

山尾委員 153 から 163 ([055]、383 文字)

安倍首相 164 から 165 ([056]、156 文字)
山尾委員 166 から 190 ([057]、1171 文字) 173、179、181、182
安倍首相 191 から 193 ([058]、245 文字)
山尾委員 194 から 198 ([059]、285 文字) 196
安倍首相 199 から 201 ([060]、237 文字)
山尾委員 202 から 214 ([061]、401 文字) 202、205、209、211
安倍首相 215 から 216 ([062]、224 文字)
山尾委員 217 から 228 ([063]、822 文字) 218
安倍首相 229 から 235 ([064]、503 文字)
山尾委員 236 から 238 ([065]、142 文字) 236

山尾委員の質疑は 169 文 (7469 文字、1 文当たりの平均文字数は 44 文字)、安倍首相の答弁は 69 文 (4468 文字、1 文当たりの平均文字数は 65 文字) である。

この一覧から、終助詞「よ」を文末に持つ文が比較的集中して ([046] [048] [049] [057] [061]) 出現していることが分かる。安倍首相は [044] [046] [048] においてかなり頻繁に身振り・手振りを交えて答弁している。視線も動いている。顔の表情にも変化が見られる。このような事柄が終助詞「よ」を文末に持つ文の使用にも現れているのではないかと推察される。

終助詞「よ」を文末に持つ文は安倍首相の答弁では 16 例が得られるが、質疑応答の前半部分に集中している。[050] 以降の答弁では、身振り・手振りがほとんどなくなっている。視線にも大きな動きが見られない。これは終助詞「よ」の不使用と関係があるのではないかと推察される。山尾委員の質疑における終助詞「よ」を文末に持つ文は、4 例 (029、111、118、119) を除けば 11 例が後半部分に集中している。安倍首相の使用と好対照であり、興味深い分布であるといえる。

4. 安倍首相の 16 例の分析

安倍首相の答弁での 16 の用例を、丸括弧内にイントネーションの別を付して掲げる。(↑) は上昇調イントネーションを表し、(↓) は下降調イントネーションを表す。

016 まさに本質を見ない、枝葉末節な議論でして、本質は何かということを見なければ経済はよくなりませんよ。(↓)

041 これは余り本質的な議論ではないと思いますよ。(↑)

045 大切なことは、こんな枝葉末節なことで揚げ足をとり合っているよりも、パートの時間給を上げることですよ。(↓)

047 この伸び率は、まさに今まで統計をとっている最も高い水準で上がりつつあるわけですよ。(↑)

048 大切なことはそうであって、そして、ちゃんと仕事をつくっていくことですよ。

(↓)

050 百十万人つくっているという現実を見た方がいいですよ。(↓)

051 倒産件数は皆さんの時代よりも二割も減っているんですよ。(↑)

052 一万件を切ったというのは二十四年ぶりのことですよ。(↓)

090 景気が悪いときは、働きたくてもなかなか職がないんですよ。(↓)

091 その認識がなければ経済は語れないと思いますよ。(↑)

093 一人の求職者に対して一人分の職があるかどうか、一になるかどうか、これはとても大切なんですよ。(↑)

094 民主党政権時代よりも安倍政権になってはるかに、全県で有効求人倍率は改善しているんですよ。(↓)

095 そういうところをしっかりと見て、なぜそうなったかということをよく分析しなければ、将来、いつになるかわかりませんが、民主党が政権をとったとしても、また、もとのもくあみになるだけですよ。(↑)

096 それが大切なところなんですよ。(↓)

108 この二割を私たちは減少させて、働く場をしっかりとつくり、そして雇用をつくって、有効求人倍率もよくなり、全県においてそういう状況を私たちはつくり始めているという状況をしっかりと見なければいけませんよ。(↓)

136 おっしゃったように、もちろん、生活を支えるためにパートをしている、それは大変だと思いますよ。(↑)

4.1 イントネーションの観点からの分析

この16例をイントネーションの観点から振り分けると次のようになる。

上昇調 7例：ですよ。2例(047、095)、んですよ。2例(051、093)、ますよ。3例(041、091、136)

下降調 9例：ですよ。4例(045、048、050、052)、んですよ。3例(090、094、096)、ませんよ。2例(016、108)

このことから、丁寧な表現「(ん)ですよ。」には上昇調と下降調のどちらのイントネーションも観察されることが分かる。「ますよ。」の上昇調、「ませんよ。」の下降調にどんな特徴があるかは、これだけでは分からない。前述の佐藤教授の「フォーリング・イントネーション」が「自分の主張に自信がある証し」とみるというコメントは単純には結論が出せないことだと考えられる。

4.1.1 上昇調イントネーションの場合

文の内容面をも分析の対象にして「よ」を文末に持つ文を上昇調イントネーションから見よう。

047 この伸び率は、(中略) 最も高い水準で上がりつつあるわけですよ。(↑)

直前の発話、046「我々はまさにパートの時間給を上げているじゃないですか。(↓)」は相手を見据えて自分の成果を誇示していると見られる。そして 047 で、自ら高い評価を与えている事態(伸び率が最も高い水準で上がりつつあること)について、相手に対して右手を挙げて強調し、「よ」を文末に持つ文を上昇調イントネーションにすることによって、当然のことであるとして強く迫る姿勢を読み取ることができる。

095 また、もとのもくあみになるだけですよ。(↑)

民主党の失敗を懸念していることを、上昇調イントネーションによって相手に知らせる、認識させる姿勢を読み取ることができる。

いずれも首相の立場からの発言、つまり、相手より優位に立っていることを示す「上から目線」の発言である。「上から目線」であることを感じさせるのは、終助詞「よ」を文末に付けるだけではない、イントネーションを上昇調にしたり下降調にしたりするだけでもない。権力を持っている首相の発言であること、発言内容が確信を持ったものであること、これらとあいまって「上から目線」の印象を実現するのだと考えられる。

051、093 も、上昇調イントネーションで発話することによって、倒産件数の減少、有効求人倍率の改善を、相手が確認せざるをえないような態度で強く示している。

041「余り本質的な議論ではない」と相手の質疑内容を過小評価する姿勢を示して自らの答弁を優位に保とうとしている。091「経済を語」る資格に必要な認識を相手を持っていないと評価する態度を示している。

最後の例 136 は譲歩の表現である。相手の言い分を一応認めた上で、後続する自らの主張を導く準備をしている。

いずれも、権力を持っている首相の立場から、つまり「上から目線」で相手より優位に立っていることを示していると考えられる。

4.1.2 下降調イントネーションの場合

次に下降調イントネーションの 9 例について分析する。

「ですよ。」の 4 例(045、048、050、052)について。

045「大切なことは、(中略) パートの時間給をあげることですよ。(↓)」はパートの時間給をあげることが大切であることを断定して相手に伝えている。048「大切なことは(中略)ちゃんと仕事をつくっていくことですよ。(↓)」も、045と同様に、仕事をつくっていくことが大切であることを断定して相手に伝えている。実行が必要であることを表す「することだ」形式を効果的に使っている。自分たちはそれを実行していると誇示する気持ちが推測できる。相手にはそれができていないという含みがある。

050「現実を見た方がいいですよ。(↓)」は評価の形式「した方がいい」を使って評価内容(現実を見ること)を相手に伝えている。052 は倒産件数が二十四年ぶりに一万件を切っ

たことを自らの成果として相手に伝えている。いずれも、相手より優位に立ち、断定して相手に伝えるという共通点を持っている。

「んですよ。」の3例（090、094、096）について。

090「なかなか職がないんですよ。（↓）」は後続する091の前提として経済を語るときの認識を「のだ」文によって相手に説明し、伝えている。相手が経済を語る前提としての認識を持っていないものとみなした発話である。094「全県で有効求人倍率は改善しているんですよ。（↓）」は自らの成果を相手に示している。096「それが大切なところなんですよ。（↓）」は大切だと評価することを説明し、伝えている。いずれも、「のだ」文によって説明的な判断を示し、それを相手に伝えている点で共通している。その伝達態度は政権を持つものとしての首相の「上から目線」を読みとらせていると言える。

最後に、「ませんよ。」の2例（016、108）について。

016「本質は何かということを見なければ経済はよくなりませんよ。（↓）」は「経済をよくするためには本質が何かということを見なければならぬ」という相手に対する為判断と同等であり、その判断を伝えている。108「……という状況をしっかりと見なければいけませんよ。（↓）」は評価の形式「なければいけない」を使って相手に対して行為の実行を強制する判断を示している。

4.2 文の連続の中に位置づけた多面的な分析

イントネーションの上下の違いに着目して別々に説明を試みた。次に、応答を一連の文の連続として捉え、口調、表情、身振り・手振り、視線といった要素もからめて観察する。

4.2.1 安倍首相の自信に満ちた答弁

[044]は9文からなる。最初の016が終助詞「よ」を文末に持つ文で、あとは出現しない。016「まさに本質を見ない、枝葉末節な議論でして、本質は何かということを見なければ経済はよくなりませんよ。（↓）」は顔をしかめるような表情で、若干顔を右に傾けて発言している。左手で手刀を切るような動作も複数回行っている。山尾委員の質疑を「本質を見ない、枝葉末節な議論」であると切って捨て、持論を表明する。これに続く8文中、9回にわたって「わけだ」のバリエーションを使っている。017「話したわけでありまして、」、018「説明させていただいたわけでございます。」、019「わけでございます。」、020「証明しようとしたわけでございます。」、021「例を出したわけでありまして、（中略）割りやすかったわけでありまして、（中略）言われるわけでありましてから、（中略）例を出したわけでありまして、（略）」すなわち、山尾委員の質疑の内容について「わけです」を使って説明しているのである。両手を左右に動かす、両手を広げる、胸を張る。019 辺りから徐々に熱を帯びた口調になり、右手を動かす、両手を広げる。021で、自分の妻の発話に見立てた「何だ、あなたの半分以下だ」の部分でくすくすと笑う。その後で右手を尻のほうに動かす、両手を広げ

る。022「言っていないじゃないですか。(↓)」と、顔をしかめて話す。024「枝葉末節な議論」の部分でも顔をしかめている。その後両手を広げ、大きな声になり、「民主党も支持率は上がらないのではないかと心配になってくるわけでありまして。」と、関係のないコメントで自席に戻っている。口調、表情、声の大きさ、身振り・手振りなどを総動員した、安倍首相の自信に満ちた答弁だと言えよう。

次に[046]を見る。

冒頭の041「余り本質的な議論ではないと思いますよ。(↓)」は、余裕のある表情で、笑顔になっており、胸を張り、前を見ている。042「説明をしているわけでありまして。」、043「表現を使ったわけでありまして。」と弁明し、044「言ったってよかったわけでありまして、(中略)本質が違うという話では全然ないわけでありまして。」と、自ら本質的でない話を述べているように思われる。045「大切なことは、(中略)パートの時間給を上げることですよ。」(↓)と、右手で指さしをし、しかめ面のような、眉をひそめるような表情で主張している。

すでに言及したように、046「我々はまさにパートの時間給を上げているじゃないですか。(↓)」と相手を見据えて成果を誇示し、右手を挙げて047「もっとも高い水準であがりつつあるわけですよ。(↑)」と誇らしげに説明する。両手を広げ048「ちゃんと仕事をつくっていくことですよ。(↓)」と胸を張るが、最後の「よ」は聞こえないくらいの音量である。野次がうるさくなり、声を大きくして、ここでも両手を広げ050「現実を見た方がいいですよ。(↓)」と主張する。倒産件数について、051「皆さんの時代より」と言って両手を委員席に向けたあと、「二割も減っているんですよ。(↑)」と、指を二本示して右手を挙げ、事実を強調して示している。052「一〇％も倒産件数が減っている」の部分では、首を前に動かし、声に力を込めて、左手人差し指を上げている。両手を広げ、053「二十四年ぶりのことですよ。(↓)」と成果を誇示している。054では、笑顔になり、両手を広げ、声を大きくして、政治家は指標を見ていかなければならないことを指摘し、山尾委員の質疑は本質的な問題ではないとする。そしてこのような議論では「国民の皆様も心配になるのではないかと思います。」と、答弁としては不必要と思われる感想を加えて終えている。

次に[048]を見る。この答弁では、[046]に比べると、動作がそれほど大きくないと感じられる。

090「景気が悪いときは、働きたくてもなかなか職がないんですよ。(↓)」は教諭すようにゆっくりと話している。091「その認識がなければ経済は語れないと思いますよ。」(↑)は相手が認識していないと思っている事柄を認識させようという余裕の態度が読み取れる。093「一人の求職者に対して一人分の職があるかどうか、一になるかどうか、これはとても大切なんですよ。(↑)」は「一」の部分から、左手人差し指を胸の前に示し、軽く振り、両手を広げて「大切」であることを強調的に説明している。094「民主党政権時代よりも安倍政権になってはるかに、全県で有効求人倍率は改善しているんですよ。」(↓)ここでは胸を

張って説明している。095「そういうところをしっかりと見て、なぜそうなったかということをよく分析しなければ、将来、いつになるかわかりませんが、民主党が政権をとったとしても、また、もとのもくあみになるだけです。」(↑)相手の弱点だと考えている事柄について、実現が不可能だという予断をもって述べ立てている。096「それが大切なところなんです。」(↓)左手を動かしている。

このあと、ズボンを上上げる動作をしたあと、12文のうち「わけです」を9回使って景気回復と職が出てくること、景気が悪いと給与も安いことなどを説明している。103で、野次が飛んだ左側の方を向いて左手を動かしながら民主党政権のときとの違いを説明している。105の部分では、それまで見られなかった、両手をテーブルにつくという動作をしている。最後の108では両手を広げたり、その両手を下ろしたりといった動作をしながら、「状況をしっかりと見なければなりませんよ。(↓)」と言い、直後に左下を向き、回れ左をして自席に戻っている。[044][046]に比べると、強い主張をしているという印象は薄いと感ぜられる。これが実質的に安倍首相が最後に使った終助詞「よ」を文末に持つ文である。あと一つある(136)が、これは譲歩の文で現れるものであり、主張とは言えない。主張は後続する137にある。

136「おっしゃったように、もちろん、生活を支えるためにパートをしている、それは大変だと思いますよ。」(↑)137「でも、そういう状況を、いわば生活を支えられるような仕事の場をつくっていくことが大変大切なことなんだろう、こういう意味で私は申し上げているわけであります。」

4.2.2 安倍首相の答弁の変調

安倍首相の自信に満ちた答弁が次第に鳴りを潜めたのは山尾委員が待機児童問題を出した(121から131まで)後からである。

安倍首相は、132において、両手をテーブルにつき、下を向いて答弁を始めたのである。134では目を下に落したり、目を上げたりして答弁をしている。自信に満ちた状態とは考えられない。先ほど引用した136、137に続く138では、下を向いている。139は、時々前を見てはいるけれども、テーブルに置いた資料を読んでいるような答弁である。「よ」は出てこない。

安部首相が女性の就業者数と就業率を混同して答弁したことを山尾委員が指摘し、160「女性の就業者数はほとんど増減がないんです。」、161「横ばいなんです。」、162「だから、待機児童の数の増減とは、どう考えても原因と結果の関係にならないんです。」とたたみかけ、左手を回転させて163「総理、いかがですか。」と答弁を促した。これで形勢が決定的に逆転した。発言の優位は山尾委員に移り、安倍首相は次のように答弁せざるを得なくなったのである。

[056] 164「そのところで事前の質問通告が、正確な数について御指摘がないので今

直ちには答えられませんが、それは調べてお答えをさせていただきたいと思います。」

165「私が九十万人ふえたと言うのは、女性の就業者の数が全体としてふえたということとでございますが、年齢分布については、また今御指摘がございましたので、調査をしてみたいと思います。」

両手をテーブルにつき、つかえながらの答弁であった。「わけだ」も「することだ」も「のだ」も「よ」も使用しない、弱々しい答弁であった。

5. 山尾委員の15例の分析

次に山尾委員の質疑を見てみる。

山尾委員の質疑での15の用例を、括弧内にイントネーションの別を付して掲げる。(↑)(↓)の意味は安倍首相の場合と同じ。

029 短時間のパートから始めていますから、一年間にすれば、これはどうしても賃金が下がるんですよ。(↓)

111 一部いると思いますよ。(↑)

118 つまり、八割は、働かないと暮らしていけない、働かないと家計が回らない、必要があるから働いているんですよ。(↓)

119 生活向上で、つまり、趣味とか旅行とか、もう少しさらにゆとりを楽しもうというために働く主婦、こういう人だったら、まあそれは、景気がよくて給料がよければ働こうかしら、余り低い給料だったらちょっとねとなると思うけれども、八割の人は、給料が低かったら働くのをやめたなんという状況で働いていないんですよ。(↓)

173 私は、すごく気になりましたよ。(↑)

179 うれしい悲鳴なんかじゃないんですよ。(↑)

181 待機児童がふえたという問題の一つの背景は、総理は今、受け皿をつくる、二倍だとおっしゃっていますけれども、受け皿、施設よりも、やはり人なんですよ。(↓)

182 保育士さんが足りていないんですよ。(↓)

196 でも、この保育士さんの処遇改善というのは、多少、この二・八兆円のうちの七千億にちょっと入っているだけけれども、本当に根っこの解決をするためには、その枠外の三千億なんですよ。(↓)

202 私も、ここに統一見解がありますよ。(↑)

205 保育士の給与アップは、この枠外で予定されている部分がたくさんあるんですよ。(↓)

209 もし、保育士の処遇改善、ちゃんとその枠外も含めて、予定している分は全部やるというんだったら、今言ってくださいよ。(↓)

211 そうしたら、多分、子育て中の方は、この軽減税率はやはりまずいなと思うと思いますよ。(↑)

218 こういう姿勢も含めて、私はやはり総理に問いたいんですよ。(↓)

236 だから、粹外なんですよ。(↓)

5.1 イントネーションの観点からの分析

この 15 例をイントネーションの観点から振り分けると次のようになる。

上昇調 5 例：んですよ。1 例 (179)、ますよ。3 例 (111、202、211)、ましたよ。1 例 (173)

下降調 10 例：んですよ。9 例 (029、118、119、181、182、196、205、218、236)、くださいよ。1 例 (209)

このことから、丁寧な表現「んですよ。」には上昇調と下降調のどちらのイントネーションも観察されることが分かる。山尾委員の質疑では下降調の「んですよ。」が多く見られる。029 は安倍首相の別の日の委員会での答弁を引用したものである。これを除く 8 例は、218 を除くと、口調の点から「自分の主張に自信がある証し」だと判断できそうに思われるが、内容面の検討とあわせて観察することにする。

5.1.1 上昇調イントネーションの場合

文の内容面をも分析対象にして「よ」を文末に持つ文を上昇調イントネーションから見てみよう。

111 一部いると思いますよ。(↑)

173 私は、すごく気になりましたよ。(↑)

179 うれしい悲鳴なんかじゃないんですよ。(↑)

202 私も、ここに統一見解がありますよ。(↑)

211 そうしたら、多分、子育て中の方は、この軽減税率はやはりまずいなと思うと思いますよ。(↑)

これらはいずれも上昇調にしてこそ効果的だと考えられる。

2 例の「思いますよ。」について。111 は譲歩の表現の前件であり、相手（安倍首相）側の見解を一応承認するものであり、強い伝え方ではない。211 は強い主張ではなく、消極的な見解を述べたものとみなされる。179 は相手に欠けているとみなした事柄を認識させる姿勢を読み取ることができる。173 は感想を述べて伝えるものである。202 は事実を相手に示して伝えるものである。

5.1.2 下降調子イントネーションの場合

次に下降調イントネーションの、引用を除く 8 例について分析する。

118 と 119 は連続している。根拠を示して 118 「必要があるから働いている」、119 「給料が低かったら働くのをやめたなんという状況で働いていない」ことについて、「のだ」文を

用いて強調した主張をしている。

181 と 182 も連続している。待機児童問題を解消するためには施設を作るよりも保育士を増やすことである、必要なのは「人なんですよ。」(↓)、「保育士さんが足りてないんですよ。」(↓) と、「のだ」文を用いて強調した主張をしている。196「枠外の三千億」が重要であることについて、205「この枠外で予定されている部分がたくさんある」ことを、「三千億なんですよ。」(↓) と、「のだ」文を用いて強調した主張をしている。

209「今言ってくださいよ。」(↓) は要望を表し、相手に迫っている。218「私はやはり総理に聞いてほしいんですよ。」(↓) は願望を表し、相手に迫っている。236「だから、枠外なんですよ。」(↓) は 196 と関連し、直前の安倍首相の答弁が質疑に答えていないことに対する不満の気持ちを表明している。不満の気持ちは「だから」を使っていることから推察できる。

5.2 文の連続の中に位置づけた多面的な分析

イントネーションの上下の違い、文の内容との関係、文末形式等に注目して個別に説明を試みた。次に、応答を一連の文の連続として捉え、口調、表情、身振り・手振り、視線といった要素もからめて観察する。

5.2.1 山尾委員の明快な質疑

山尾委員の最初の発言 [043] は、両手をテーブルにつき、資料に目を落としながら、安倍首相を見て話し、右手を細かく動かしている。007 から 009 の途中まではフリップを指して該当箇所を右手で示している。資料を右手に持ち、左側を見回して発言している。009 の途中から 013 まではフリップの映像になり、音声だけが流れている。全体的に落ち着いた口調で、明瞭な発音である。

[045] は資料を右手に持ち、目を落としながら発言している。資料を読みながら発言している。ここでも落ち着いた口調で、明瞭な発音である。

[047] は両手をテーブルに置き、まっすぐに立って首相を見ながら発言を始めている。途中で資料を左手に持ち、掲げながら 060 から資料を読み始め、途中で右手に持ち替えて 071 まで読む。072 を始めるにあたって、資料を置き、別の資料を左手に持って発言を始めている。フリップを示しての発言となり、途中で安倍首相が「いっぱいいるよ」と野次を飛ばしたことを捉えて突っ込んでいる。ここで両手を広げて小刻みに動かし、次いで両手を合わせ、腹の前で上下に小刻みに動かしながら発言する。さらに、委員席に向いて 086「今総理は、いっぱいいるよとおっしゃいました。」と、確認を求めるような動作をし、両手を顔のあたりまで広げて動かしながら発言している。次に下を向き 088「どうですか。」と右手を首相の方に向け、089「どうぞ。」と再度右手を首相に向けて答弁を促している。

[049] では、資料を右手に持ったり、左手に持って右手を動かしたり、両手を広げたりし

て発言している。118「つまり、八割は、働かないと暮らしていけない、働かないと家計が回らない、必要があるから働いているんですよ。」(↓) 119「生活向上で、つまり、趣味とか旅行とか、もう少しさらにゆとりを楽しもうというために働く主婦、こういう人だったら、まあそれは、景気がよくて給料がよければ働くかしら、余り低い給料だったらちょっとねとなると思うけれども、八割の人は、給料が低かったら働くのをやめたなんという状況で働いていないんですよ。」(↓) いずれもデータに基づく説明となっており、右手でテーブルを軽く叩くような動作をし、「働いてないんですよ。」の部分は声を大きくして繰り返し、説明内容を強調し、相手に認識させようとしている。この後で、待機児童問題を取り上げ、安倍首相の別の機会の発言を引用して、131「この認識にお変わりはありますか。」と確認を求めている。虚を突かれたかのように、安倍首相の自信のなさそうな答弁が続く（[050] [052] [054]）ことになったのは前述したとおりである。

5.2.2 山尾委員の鋭い質疑

[057] で山尾委員は女性の就業者数は増えたけれど、安倍首相が就業者の年齢分布を見ていることが明らかになったことを捉えて追及している。171「その意味で、うれしい悲鳴ではあるのですが、待機児童ゼロは必ず成し遂げなければなりません。」と、安倍首相の発言を引用し、172で安倍首相を見、173「私は、すごく気になりましたよ。」(↑) と、安倍首相が気づいていない事柄に気づかせようとする意図で表出している。また首相を見て178「子供が保育園に入れないというのは、本当に子育て世帯とか働く母親にとって心の底からの悲鳴なんです。」と強く訴え、179「うれしい悲鳴なんかじゃないんですよ。」(↑) と、安倍首相の理解が間違っていることを、声を大きくして強調して伝えている。「よ」の箇所は強く発音されている。180はトーンを普通に戻し、首相を見ながら、「まずは年齢分布、しっかりもう一回、総理、認識していただきたいと思います。」と要望している。待機児童問題を解決するためには、首相が言うように受け皿、施設を増やすより、181「やはり人なんですよ。」(↓)、182「保育士さんが足りていないんですよ。」(↓) と、下降調イントネーションで、自信を持って主張し、伝えている。

[059] では首相を見て、資料はほとんど見ないで発言している。首相が削るかもしれないと言っている、枠外の社会保障三千億円が保育士の処遇改善の根本的な解決に不可欠であるとし、196「その枠外の三千億なんですよ。」(↓) と強調して示し、198「総理、軽減税率で、枠外で処遇改善しようと思っていたこの計画は削られる可能性があるんじゃないですか。」と、強い口調で迫っている。

[061] 資料を左手に持ち、掲げるようにして、しかし、資料は見ないで 202「私も、ここに統一見解がありますよ。」(↑) と、根拠のある質疑を行う姿勢を相手に認識させようとしている。

205「この枠外で予定されている部分がたくさんあるんですよ。」(↓) と主張し、206「こ

こは削る可能性があるんじゃないですか。」(↑)と疑念を表明し、その根拠を、207「だってここに書いてあるもの。」と資料を指差している。そして、首相を見ながら、208「現時点では具体的な措置内容が念頭にあるわけではない、わからないと書いてあるじゃないですか。」と同意を求め、209「もし、保育士の処遇改善、ちゃんとその枠外も含めて、予定している分は全部やると言うんだったら、今言ってくださいよ。」(↓)と、下降調イントネーションで声を大きくして首相を見ながら強く要求している。そして、211「そうしたら、多分、子育て中の方は、この軽減税率はやはりまずいなと思うと思いますよ。」(↑)と、首相が認識していない子育て中の人の思いを推測している。

[063] 218「私はやはり総理に伺いたしたいんですよ。」(↓)と質疑の意図を強制的に表明している。[065] 安倍首相の、開き直りとも思える答弁と、弁解の説明に議論がかみ合っていないといういらだちの気持ちも込めて、声を大きくし、首相を見ながら236「だから、枠外なんですよ。」(↓)と議論の核的な部分を強調している。

以上、山尾委員の質疑は、全体的に落ち着いた口調で行われている。重要な箇所では声を大きくして強調する話し方が特徴的である。「上から目線」という印象はなく、相手が認識していないことを認識させる意図を込めた発言であることが特徴的である。野党であるから、同じような言語形式やイントネーションを使っても、「上から目線」になりようがない。根拠に基づいて自信を持って相手に認識を迫るという手法になるのである。

6. まとめ

本稿で述べてきた事柄の要点をまとめておく。

終助詞「よ」を文末に持つ文のモダリティーは、終助詞「よ」だけで決定できるものではない。したがって、「よ」を付けると「力関係で相手に勝っているとの心理の表れ」というのは一面では正しいが、すべてを説明するものではない。

終助詞「よ」を文末に持つ文のモダリティーは、その文のイントネーションによって決まる部分がある。ただし、下降調イントネーションが、発話者が自分の主張に自信を持っていることの証拠であると理解することは、一部分は正しいと言えるが、すべてに当てはまるのではない。

終助詞「よ」がどの形式に付くのかによって文のモダリティーが決定できる場合がある。「することだ」形式は実行が必要であることを断定し、下降調イントネーションの「よ」によって相手に伝える。説明の「のだ」文は説明的な判断を示し、下降調イントネーションの「よ」によって相手に伝える。評価の「した方がいい」「しなければならない」は、相手より優位に立って断定し、下降調イントネーションの「よ」によって相手に伝えている。

「よ」を文末に持つ文が上昇調イントネーションをとる場合は相手が認識していない（とみなしている）ことを認識させるという態度を表す。

「よ」を文末に持つ文を、文の連続の中に位置づけてみると、そのあとに続く文との関係、

口調、表情、身振り・手振り、視線といった要素が当該文の発話姿勢と有機的に関連する。
[044] の 016 の例、[046] の 041 の例で詳述した。

注

1. 日本経済新聞電子版 2016 年 2 月 14 日 3:30 (2016 年 6 月 21 日アクセス)。
<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO97257540T10C16A2TZJ000/>
2. 「190-衆-予算委員会-7号 平成 28 年 02 月 04 日」というのは、平成 28 年 2 月 4 日に行われた第 190 回国会衆議院予算委員会議録第 7 号を表している。
3. 小矢野哲夫 (2015) 「講演 発話に伴う顔の表情、声の表情」(『EX ORIENTE』Vol.22、大阪大学言語社会学会)、小矢野 (2016) 「国会会議録を用いた日本語の研究」(『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』創刊号 2016. 3. 31)